

三原市公共施設類型別実施計画（案）  
【スポーツ・レクリエーション系施設（スポーツ施設）編】

1 施設配置



No.	施設名
1	三原運動公園
2	久井運動公園
3	白竜湖スポーツ村公園
4	三原リージョンプラザ
5	武道館
6	本郷体育センター
7	北方グラウンド・ゴルフ場
8	江木スポーツ広場

2 施設データ（平成 26 年度の実績を記載し、収入・支出は臨時的なものを含む。経過年数は平成 28 年時点）

施設名	地域	建築年 (年)	経過 年数 (年)	延床 面積 (㎡)	運営	利用者数 (人)	日平均 利用者数 (人/日)	収入 (千円)	支出 (千円)	収支 (千円)	利用者 当収支 (円/人)
三原運動公園	三原	1992	24	3,521	指定管理	120,946	331	22	34,013	△33,991	△281
久井運動公園	久井	1983	33	1,719	直営	13,621	37	764	12,539	△11,775	△864
白竜湖スポーツ村公園	大和	1992	24	5,994	指定管理	49,420	135	5	26,326	△26,321	△533
三原リージョンプラザ	三原	1984	32	14,359	指定管理	161,762	443	752	234,900	△234,148	△1,447
武道館	三原	2014	2	1,277	指定管理	22,431	61	1,633	2,891	△1,258	△56
本郷体育センター	本郷	1980	36	1,126	直営	10,481	29	634	4,308	△3,674	△351
北方グラウンド・ゴルフ場	本郷	1956	60	330	指定管理	27,150	74	2	5,454	△5,452	△201
江木スポーツ広場	久井	1986	30	23	直営	2,689	7	71	456	△385	△143

※三原リージョンプラザは、スポーツ施設と文化施設の複合施設であるが、利用者数はスポーツ施設利用者のみ的人数

3 現状・課題

(1) 全体

- ・ 武道館以外の施設は築後 24 年以上経過しており、老朽化が見受けられる。
- ・ 多くの施設において指定管理者制度を導入し、利用料金制の下で民間事業者による施設運営が行われているものの、使用料収入が少なく、施設から生じる収入のみに頼る運営は困難な状況にある。いずれの施設においても市からの委託料が発生している。

(2) 運動公園（陸上競技場、野球場、テニス場等）

- ・ 本郷地域には運動公園はないが、都市公園である本郷総合公園がその機能を一部果たしており、さらに、そこから約 4km の場所には三原運動公園がある。
- ・ 三原運動公園は年間 12 万人を超える利用があり、市民ニーズは高く、多くの市民がスポーツに親しむ機会を創出している。
- ・ 久井運動公園は年間利用者数が約 1.4 万人と少ないが、体育館とプールは B&G 財団から無償譲渡された施設であり、廃止する場合には B&G 財団との協議を要する。
- ・ 白竜湖スポーツ村公園は年間 5 万人の利用があり、スポーツの振興に必要な施設である。また、白竜湖花火大会の会場となるなど、地域活性化拠点施設として不可欠である。

(3) 体育館・武道館

- ・ 三原リージョンプラザの体育館は年間約 10 万人の利用があり、市の中心的な体育館として不可欠である。
- ・ 本郷体育センターは築後 36 年が経過し、老朽化が進んでいる。終日にわたって稼働率が 70% を超え、利用者数も 1 万人を超えている。単独の体育館としては本郷地域に 1 つしかないが、コミュニティセンターや小学校の体育館で代替できる可能性がある。
- ・ 久井運動公園の体育館の利用者数は約 3,400 人程度となっている。
- ・ 白竜湖スポーツ村公園の体育館は約 1.3 万人の利用がある。
- ・ 武道館は平成 26 年 4 月に新設した施設であり、多くの武道団体が利用しており、武道の振興に不可欠である。
- ・ 体育館については、合併前の旧行政区域の体育館、放課後の小中学校、地域運動センターやコミュニティセンター等体育館機能を果たせる施設が複数あることから、体育館機能のあり方を検討する必要がある。

(4) プール

- ・ 三原リージョンプラザは温水プールで通年開場され、年間 4 万人の利用があり、市の中

心的なスポーツ施設として不可欠である。

- ・久井運動公園は屋外プールのため 7～8 月のみの開場であり，利用者数は約 5,000 人程度となっている。
- ・小学生については，夏季休業中の小学校プールを利用することもできる。

(5) その他

- ・北方グラウンド・ゴルフ場は市内唯一の日本グラウンド・ゴルフ協会認定コースで，年間 3 万人近い利用があり，さまざまな団体が大会等を行っており，生涯スポーツの推進に必要な施設である。
- ・江木スポーツ広場は稼働率が低く，久井運動公園にも照明設備付グラウンドがある。
- ・リージョンプラザについては，新庁舎への事務所移転に伴う空きスペースの活用を検討する必要がある。

4 実施方針

- ・利用圏域については，すべての施設を市域施設として位置づけ，機能（陸上競技場，野球場，体育館，プール等）ごとの施設配置を検討する。
- ・体育館については，体育館機能のあり方を検討した後に方向性を決定する。

5 個別施設の方向性

施設名	方向性		説明
	機能	建物	
三原運動公園	継続	継続	機能・建物を継続する
久井運動公園	検討	検討	体育館については，体育館機能のあり方を検討した後に方向性を整理する。プールについては，利用者数の推移や大規模改修の必要性を見ながら廃止を検討する
白竜湖スポーツ村公園	継続	継続	機能・建物を継続する。体育館は体育館機能のあり方を検討した後に方向性を整理する
三原リージョンプラザ	継続	継続	南館は周辺公共施設の再配置検討において貸室機能として活用するため継続とする。文化ホール・展示ホールについては文化施設の類型で検討する。体育館は体育館機能のあり方を検討した後に方向性を整理する
武道館	継続	継続	機能・建物を継続する
本郷体育センター	検討	検討	体育館機能のあり方を検討した後に方向性を整理する
北方グラウンド・ゴルフ場	継続	継続	機能・建物を継続する
江木スポーツ広場	当面継続	当面継続	当面は機能・建物を継続し，大規模改修が必要な時期に廃止する

6 年次計画

施設名		H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
三原運動公園		継続							
久井運動公園	体育館	継続	あり方検討 /方向性決定						
	その他	当面継続 (プールは利用状況・大規模改修の必要性をみながら廃止を検討)							
白竜湖スポーツ村公園	体育館	継続	あり方検討 /方向性決定						
	その他	継続							
三原リージョンプラザ	体育館	継続	あり方検討 /方向性決定						
	その他	継続							
武道館		継続							
本郷体育センター		継続	あり方検討 /方向性決定						
北方グラウンド・ゴルフ場		継続							
江木スポーツ広場		継続 (大規模改修が必要な時期に廃止)							